

徘徊が共通の話題に

三郷の小さなつどい 11/10（土）13：30～

みさと健和クリニック旧棟 参加者22名

自己紹介の後、10月26日の「認知症フォーラム」のDVDを映し、クリニックふれあい早稲田の大場先生が発言されている部分の一部を視聴しました。残りは次回に。

Eさんは、8月に行方不明になってしまい、警察にも届けたが、その日には見つからず、翌朝通りかかった人が倒れているのを見つけてくれた。今は、一緒に気のすむまで歩くようにしている。

Yさんは車の仕事を長くしていたので、車の運転を止めさせたら、がっくりきてしまった。（ご本人が隣で「あの時は淋しかった」とのこと）散歩は近所へは行かなくなった。何か嫌なことを言われたらしいので、たまには一緒に歩き、この間は3キロも歩いた。

Nさんは、84歳の母が、徘徊がすごくて、以前は妹夫婦が面倒を見ていた。鍵をかけたら、2階の窓から大声で呼ぶので、妹達もお手上げになり、私が引きとったのですが、今でも1日に15回も出て行ってしまふ。最近、薬を変えたら気性が荒かったのは、少し穏やかになった。

大場先生からは「徘徊するのは、本人にとっては何か目的がある。そこに居心地が悪いとか。デイケアセンターで、出るのを止めないで、スタッフがそっとついて行くようにしていると、最高1日に20回出て行った人がいる。でも半年も経つと、外出しなくなる。デイケアセンターに来て不安だったのが、だんだんと居心地がよくなったから。その人の気持ちを考えてあげることも大切」と話されました。